

第3回 研究会（全体会）

スタートカリキュラム公開授業振り返り

幼小	子どもの主体性を育む幼小の円滑な接続の在り方を探る ～幼児と児童の数的感覚を中心に～
小	主体的に学び続ける子の育成 ～実態に合った算数的活動の充実を通して～

- 1 学校長より
- 2 スタートカリキュラム公開授業について伝達

組	児童の様子・授業を振り返って	
1組	<ul style="list-style-type: none">・幼稚園から道具を借りて、慣れ親しんだ遊びをしている。・だんごの数を数えたり、穴の深さを調べたりして、算数科と関連させた。 (カリキュラム担当：土川)	<ul style="list-style-type: none">・毎朝、大型絵本（幼稚園から借りてきたもの）の読み聞かせをしている。・どろんこあそびの絵本を読んだ後、砂場へ。・それぞれの場所で、いろいろな工夫が見られた。 (授業者：浅見)
2組	<ul style="list-style-type: none">・「わくわくたんけんたい」のワッペンを付けることで意欲がわいた。・家庭科室などで、どんなものがいくつあったかを数えるといった経験をしている。 (幼小接続主任：坂井)	<ul style="list-style-type: none">・給食室に行ったときに、自分たちで「探検させてください！」と言っていった。・時間がなかなか守れなかった。 (授業者：吉川)

幼稚園より（野原）

- ・緊張がどんどんほぐれていっている。
- ・ワッペンが魅力的だった。→子どもたちの意欲につながった。
- ・子どもたちの様子を共有する時間があってもよかった。

3 質疑応答

- ・幼稚園から小学校のスタートカリキュラムを見て、思ったことはないか。
→入りにくい子たちの配慮が大切。ちょっとした言葉かけ。
例) 気持ちは向いているけど、入れない時・・・近くに行って聞いて困りを聞いてあげる。
→その子に応じた言葉かけ、言葉のかけ方、タイミングが大切。(野原)
- ・6年生と1年生の仲がよい。1年生が生き生きしている。しかし、学校探検のときに、廊下を走っ

ている子がいる。安全面から指導したいが、スタートカリキュラムの視点から、どのように関わっていけばよいのか分からない。

→探検の前にルールを確認している。探検が楽しくなる中で、ルールが守れなくなっていることがある。いろいろな先生に注意をしてもらったらよい。

→子どもは、見つけたものをすぐに先生に言いたいので、大声を出してはいけないところでは気を付けていかないといけない。

→学校全体の先生が、1年生のための共通のキーワードを知っていたらよい。

→1年生への伝え方を考えて話す。見逃してはいけない。

4 指導助言（京都教育大学准教授 古賀 松香 様）

・幼稚園から道具を貸し出したとき、どのようなことを共有して貸し出したか。

→時期尚早で、小学校側で準備ができていなかったため、幼稚園に借りた。

→造形砂場ではないので、水を使うことなどができなかった。

・造形的なことができない砂場とするより、幼稚園の砂場を借りたらよかつたのではないか。

・今回、小学校で行った砂場での学習は、本来、3歳で行うもの。型を使うものは3歳の11月ごろで終わっている。どこまで小学校の先生が発達段階を理解しているのか。

・4歳では、植物を植える過程で、数の意識をしている。

・幼稚園で既習の事柄を、どのように指導していくか。

・小学校に入って何をやるのかわくわくしている1年生にとって、今までやってきていることを改めてするのはどうか。

・時計カード→自分たちで意識できる。

・休み時間にわくわくたんけんたいで見つけたものを書いておくカードがあるとよい。授業で使っているものが、休み時間に自主的に活動したことに使えるとよい。

・子どもたちが事前に時間を意識できるようにし、子どもたちとプランを考えるのもよい。



研究会の様子

○主体的になるために・・・

・選択肢があることは重要→子どもにとって意味のある選択肢になっているか。

・子どもが使いこなせる道具か→どうすれば使いこなせるか。

・子どものできる力を知り、信頼する。

5 学校長より

・間違いを次に活かす授業、自由度のある授業を考えることが大切。

・本当に「自然と・・・」できるようになるのか。教師より手立てを。

・主体的に活動し、学べる学習環境を作ることが大切。